

様 式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19（共通）

科学研究費助成事業 研究成果報告書



令和 6 年 6 月 10 日現在

機関番号：11301

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2023

課題番号：17K18311

研究課題名（和文）マカートニー使節団の記録にみる中国像 未公刊史料を中心に

研究課題名（英文）The Chinese Image by Macartney Embassy

研究代表者

熊谷 摩耶（Kumagai, Maya）

東北大学・国際文化研究科・GSICSフェロー

研究者番号：90759078

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,600,000 円

研究成果の概要（和文）：本研究は、これまで主にテキスト中心の分析が行われてきた英中交流史において、19世紀以降の西欧諸国の中国像の変化に影響を与えたとされるマカートニー使節団員の記した資料の中でも、視覚情報もテキストと同時に分析を行うことで、記されてこなかった中国情報を確認することができた。結果、テキストではさほど言及することはなかったものの、挿絵を分析したところ棄児など西欧諸国において中国像を論じ際に注目しているトピックに関する描写があったことなどがみられた。これらは、西欧諸国において中国像が変化する18-19世紀の過渡期において、テキストにとどまらない中国情報を提示していると考えられる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、現代社会にも通ずる異文化理解の過程の一端として18-19世紀の西欧諸国における中国像の変化の過程、とりわけ変化の過渡期とされているマカートニー使節団による中国報告に着目している。例えば英国の高級紙『タイムズ』紙の19-20世紀に出版された記事を調査すると、中国との関係を論じる際にたびたび同使節について言及がなされており、後世の英国人にとって忘れがたい接触であったことがわかる。そこで記録の分析を行い18世紀末の英国における中国像を明らかにすることが、18世紀末から19世紀初頭のみならず、それ以降の英国で形成された中国像へ与えた影響とその原型を提示することになると考えられる。

研究成果の概要（英文）：In the history of Anglo-Chinese exchange, which has been analyzed mainly through textual sources, this research has identified information on China that has not been recorded in the texts by simultaneously analyzing illustrations in records by the Macartney Embassy. The records are said to have influenced changes in the image of China in Western countries during the 18th century and 19th centuries. Consequently, the analysis of the illustrations revealed depictions of topics that were frequently discussed when evaluating the image of China in 18th century Western countries, such as infanticide. Additionally, we also conducted an analysis of images from unpublished sketchbooks by William Alexander and examined any new information on China that he may have added when he published his works after his return. We will continue to conduct a detailed analysis from Alexander's illustrations, which had a visual impact on the image of China in Western countries from the 19th century and after.

研究分野：比較文化学

キーワード：東西交流史 中国像 異文化理解 比較文化 マカートニー使節団 英中交流史 異文化表象 ウィリアム・アレグザンダー

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

本研究に取り組むにあたって、18 世紀から 19 世紀にかけての英国における中国イメージの通時的 content 分析に取り組んできた。先行研究では同時代西欧諸国における中国像が 18 世紀末から 19 世紀初頭にかけて大きく変化たとされているが、後述のようにその過渡期の解明は十分にはなされていない。本研究は、過渡期に着目し、英国における中国像の変遷を論じる。その分析対象としては、従来の英中交流史を論じた先行研究では殆ど活用されることのなかった、当時の英国で出版・刊行された書物や新聞・雑誌記事などのマスメディアにおける情報を取りあげ、また同時期に出版された英文学作品、中国側の文献として清王朝時代の歴史書、さらには未公開であり日本国内ではまだ検討対象となっていない画像資料なども援用し、学際的な立場から多角的に解明を試みている。16-18 世紀初頭の英国および西欧諸国では、中国を読書人の官僚たちと孔子のような徳の高い哲人皇帝が治める理想郷としてみるものが殆どであった。というのも、中国情報の基盤は、16 世紀より明代中国に滞在し布教を続けてきたイエズス会士たちの手による故郷への報告書や書簡であり、彼らは中国には西洋ほどの科学技術はないとしつつも、キリスト教文化圏にはない儒教文化を礼賛し続けたためである。しかし、ルソーをはじめとする知識人の中には、徐々にイエズス会士からの報告に対して疑問を抱く者も増え、中国情報の担い手が宣教師のみならず旅行者や商人などに変化するにつれて、18 世紀末から 19 世紀初頭にかけて、中国は西欧諸国のような産業革命を有さず、進歩のない「停滞の国」というイメージが流布しはじめていた。しかし、先行研究では中国像が大きく変化する、いわば過渡期とされている 18 世紀末から 19 世紀初頭に関する研究は手薄であり、中国像の変化について論じられていないといえよう。そこで、本研究では変化の契機とされているマカートニー使節団員らの記録を主な研究対象とすることが妥当と判断した。

近年の研究として、18-20 世紀にかけて西欧諸国の中国像の考察を行った大野英二郎は『停滞の帝国 近代西洋における中国像の変遷』(国書刊行、2011)の冒頭にて「しかし一八世紀末から一九世紀初頭にかけて、中国に関してもたらされる情報が大きく変化する。...その契機となるのは、一七九二年にイギリスが派遣したマカートニー使節団である。」と述べており、ここでマカートニー使節団の記録の重要性を説いている。しかし、申請時点では中国の研究、英語圏での研究成果を調査し、2013 年 12 月にはイギリス現地において 1 か月間の調査を行ったが、複数のマカートニー使節団員の記録を用いて中国像の変化を論じている研究はみられなかった。

このように、18 世紀末から 19 世紀初頭に至るまでの間西欧諸国では、中国を礼賛する声と野蛮で「停滞の国」であるとする両方の意見が激しく混在する時期であった。しかし、変化のきっかけとなった出来事に注目する研究は少なく、寧ろ 18 世紀の中国像と 19 世紀の中国像の比較に留まっている研究が大半を占める。そのため、英中交流史に興行が欠如し、当該分野は一種の停滞の様相を示している。また、これまで中国像を論じるにあたって文学作品や思想、オリバー・インピーの『シノワズリー』(NY: Charles Scribner's Son, 1977)など美術工芸品から論じてきた研究はあるが、それらは上位の知識人や、高価な工芸品を有することのできた貴族たちの持つ中国像を対象としており、分析対象が限定されている。そこで、分析対象を広げるためには、思想や文学作品のみならず、その他のマスメディアや旅行記も考察対象に加え、時には中国側の文献を援用する、他の分野を横断し幅広い視点をもった比較文化的な研究が必要不可欠である。

2. 研究の目的

本研究の目的は、18 世紀末から 19 世紀初頭にかけて、英国における中国像を劇的に変化させたとされる、1792 年に英国よりはじめて中国に派遣されたマカートニー使節団の団員らが記した記録をもとに異文化理解および異文化表象の過程を明らかにすることにある。中国像の「変化」が発生した過渡期で起きた細かな事象を検討することで、変化が発生した契機およびその詳細な過程について明らかになると考えられる。しかし、これまでのテキスト中心の分析だけではなく、国内外の未公開の画像資料や日記をさらに分析対象として新たに加えることで多角的に、かつより一層、変遷の過程を確かなものにする。これにより現代にも通ずる異文化理解のプロセスの一端を明確化することを可能とする。

3. 研究の方法

本研究では、マカートニー使節団員が記した日記、著書、画像集と未公開のスケッチ本や日記の比較検討を行うことで、団員がもたらした中国像の原型を明らかにする。その方法として、団員が記した上記の史料を精査し、団員が共通して記している項目の検討のみならず、国内初となる画家アレグザンダー (William Alexander, 1767-1816) の書籍『中国の衣服が描いた未公開である三冊のスケッチ本の画像、日記などを公刊されている著作との比較検討を行い、団員たちが新たに追加した中国的要素を抽出し、彼らが意図的に示した中国像を明確化する。最終的には、本研究の成果を東西交渉史の一端を担うとともに、得た調査結果を国内外の学会にて発表、報告を行う。

4．研究成果

これまでテキスト中心の分析が行われてきた英中交流史において、新たに画像史料も同時に分析を行うことで、テキストには記されてこなかった中国情報を確認することができた。一部の例を挙げると、アレグザンダーが中国女性の足の大きさと身分差が密接に関連していることを絵で表していること、18世紀の西欧諸国において中国像を論じる際に頻繁にその対象となっていた棄児・嬰兒殺しにおいてアレグザンダーは文書ではさほど言及することはなかったものの、挿絵を分析したところ明らかに棄児に注目している描写があったことなどがみられた。これらは、西欧諸国において中国像が変化する18-19世紀の過渡期において、文書にとどまらない中国情報を提示していると考えられる。これらの点については国内の学会では「画家ウィリアム・アレグザンダーの記録にみる18世紀の中国女性」(2017年度日本比較文化学会関西・中国四国・九州3支部合同研究会)、国際学会ではThe Visual Images of the Chinese Emperor Qianlong ; The Pictures and the Records from the Macartney Embassy (16th Congress of the International Society for Eighteenth-Century Studies)として発表を行った。なお、論文としては、「イエズス会士とマカートニー使節団の記録にみる中国像の変化——中国清代の「棄児」習慣への視線から——」(ヨーロッパ研究(18) 2-21 2024年3月)として、出版を行った。

また、アレグザンダーが中国滞在中に描いたと思われる未公開のスケッチブック(大英図書館にて所蔵。請求番号: WD959, WD960, WD961)の画像と、上述したアレグザンダーの中国に関する出版物2冊を比較し、アレグザンダーが帰国後に出版する際に、新たに追加したと思われる中国情報の検討を行った。英国での史料調査を行った結果、数百点にも及ぶアレグザンダーの未公開のスケッチブック三冊すべての頁、画像を収集することができた。以前、2013年に英国にて調査を行った際は全ての画像を把握ならびに収集を行うことができなかったが、今回予想以上に画像の数が膨大であったため詳細な分析は今後引き続き実施し、19世紀以降の西欧諸国の中国像に視覚的な影響を与えたアレグザンダーの中国像の分析を行う。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 1件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 熊谷摩耶	4. 巻 18
2. 論文標題 イエズス会士とマカートニー使節団の記録にみる中国像の変化 中国清代の「棄児」習慣への視線から	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 ヨーロッパ研究	6. 最初と最後の頁 2-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 熊谷摩耶	4. 巻 12
2. 論文標題 マカートニー使節団員のその後 18世紀英国の中国情報と需要	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 なじまゐ	6. 最初と最後の頁 25-25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件／うち国際学会 1件）

1. 発表者名 熊谷摩耶
2. 発表標題 マカートニー使節団の諸記録
3. 学会等名 東京大学史料編纂所共同利用・共同研究拠点 一般共同研究 2020年度「18世紀オランダ東インド会社の遣清使節日記の翻訳と研究（9月研究会）」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 熊谷摩耶
2. 発表標題 16-18世紀の西洋人たちの記録にみる「籠居」する中国女性
3. 学会等名 日本比較文化学会2018年度 関西・中部・関東支部合同例会
4. 発表年 2019年

1．発表者名 熊谷摩耶
2．発表標題 画家ウィリアム・アレグザンダーの記録にみる中国女性
3．学会等名 日本比較文化学会 2017年度関西・中国四国・九州三支部合同研究会
4．発表年 2017年

1．発表者名 熊谷摩耶
2．発表標題 The Visual Images of the Chinese Emperor Qianlong ; The Pictures and the Records from the Macartney Embassy
3．学会等名 16th Congress of the International Society for Eighteenth-Century Studies (国際学会)
4．発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

熊谷摩耶「アヘン戦争以前の中国と西欧の出会い;中国の対外的姿勢の評価とその変遷」日本大学国際関係学部 国際総合政策学科 第二回学術講演（2022年7月）
--

6．研究組織			
	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

7．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------